

歌唱・視覚的教材を用いたピアノ初学者向け読譜指導法

Musical Score Training Method for Piano Beginners
using Materials with Songs and Visual Effects

股木 裕美子

Yumiko MATAKI

ピアノ初学者にとって「弾き歌い」の基礎となる読譜の指導法を、①音名（イタリア語、日本語、英語）の習得、②五線上の音符の理解、③音符や休符の長さの理解の3点を課題として考案した。その際、「音名・音符ソング」を創り、学生たちが歌唱を通じて自然に習得できるように、また色音符という視覚効果を通じて理解できるように工夫した。その結果、試験正答率だけでなく、学生の学ぶ意欲の変化としても効果が得られた。

キーワード：弾き歌い ピアノ初学者 読譜 音名 コード伴奏

1. はじめに

保育者にとって、ピアノを弾きながら子ども達と歌を歌うこと（以下、「弾き歌い」）は子ども達との生活をより彩りあるものにするための大切なスキルである。弾き歌いを学ぶ時、必要不可欠なのが読譜力である。学生は保育の現場で、幼稚園の園歌やオリジナルの曲、生活の歌や季節の歌、行事の歌など、現場での要望に合わせて実際に弾き歌いをする機会に遭遇する。したがって、読譜力の習得と向上が、保育者養成校での指導に課せられていると言える。

一方、保育者養成校等では、ピアノ練習経験が浅いまたは経験がないという学生（以下、「ピアノ初学者」）の割合が年々多くなっている。授業開始の際ピアノ初学者の学生は、「楽譜をどうやって読むのかわからない」という段階から始まる。ピアノの譜面には沢山の情報があり、それを瞬時に読み込み脳から手、指先に信号を送る作業を習得しなければならない。しかし、ピアノ初学者にとって五線上の音を読み音階として把握し、さらには鍵盤上での運指に落としこむことは容易ではない。また、音名、調性やコードネームがイタリア語（ドレミ...）、日本語（ハ

ニホ...）英語（CDE...）と3か国語で表記されることに戸惑う学生も多い。

筆者は、学生が弾き歌いを学ぶファーストステップである読譜力を、如何に親しみやすく習得させるか、五線譜の中の音符の白黒の世界を音階として読みとく力を如何にして習得するかについて、視覚情報も活用した指導法を模索してきた。本稿は、以上の動機に基づいて考案した、ピアノ初学者にとって親しみやすい指導法を提案するとともに、この指導法に関して授業を通じて得られた検証結果について論考することを目的とする。指導法の考案にあたっては、以下の3点を課題として設定した。

- ① 3か国（イタリア、日本、英語）の音名を同時に覚え、身に付けさせること。
- ② 五線に書かれた音符を、まず視覚的に特徴付けて覚えさせること。
- ③ 音符や休符の長さを楽に楽しく覚えさせること。

以下、課題①～③ごとに、指導方法の考案にあたって留意した点を論じ、実技指導に落とし込んだ結果と効果について論述する。なお、譜

例などの資料は、本稿の末尾に付し、本文中では【 】で資料等の番号を明示する。

2. 課題毎の指導法の考案と指導結果

2.1 課題①

2.1.1 課題①対応の留意点

学生はイタリア音名のドレミファソラシドには馴染みがあるが、日本音名、英語音名は殆ど知らない。日本音名はハ長調、ト長調等、調名と密接なかかわりがあり、調名の意味を知るには、日本音名を知ることから始まる。

英語音名はコード伴奏のコードの表記が英語音名である為、覚えておかないとコードネームの表記の意味が全くわからず戸惑ってしまう。コードネームは和音を表すと同時にその和音の根音（ルート音）を表す表記になっており、それを元に左手の根音（ベース音）を瞬時に判断することができる便利な表記である。学生は左手伴奏を簡略化するコード伴奏を習得することによって、コードネームから即興的に伴奏ができるような、現場での応用につながる能力を養うことになる。コードネームを表す英語表記の音階を学習する事は、コードネームを学ぶ上で最も重要な学習の始まりの一步である。

このような観点から、学生にただ一覧表を見せて覚えさせるのではなく、学生が自然と暗唱できるように身体に染み込ませることを、課題①に対応をする上での目標とした。そして、以下の i) から iii) の3点を留意点として、指導法を考えた。

i) イタリア音名（ドレミファソラシド）には馴染みがあるので、イタリア音名をもとに日本音名、英語音名での音階（ドレミファソラシド）を知り、イタリア音名と同様に自然に口をついて出るようにする。

ii) イタリア音名、日本音名、英語音名をただ言葉で覚えるのではなく、ドレミファソ

ラシドの音の高さで自然に覚えられるようにする。

iii) 3か国の音名の音階をスムーズに、音階全部の音を漏れなく全て言えるようにする。

2.1.2 課題①対応の指導法

2.1.1で示した3つの留意点を全て満たす方法として、3か国それぞれの音名に旋律をつけて「歌」にする方法を考案した。歌詞は3か国語の音階だけをシンプルに書き、その前に「いろいろな音名ドレミファソを歌ってみよう」とだけ付けた。その目的から【楽譜1】に示した「音名ソング」を、本学の岡崎教授にアドバイスをいただいて創り、子どもと音楽・基礎（以下、「音楽基礎」）の授業内で、本学の岡崎教授による歌唱を学生が聴き、岡崎教授の指導により学生と一緒に歌った。

シンコペーションのリズムでの歌の始まり、長3度上がる音型の連続により明るさが増し、うきうきと楽しい気持ちを表現するような歌い出しになった。その冒頭のモチーフを前奏に使い、「さあ、これから楽しいことが始まるよ!」という明るく軽快な前奏にした。

また、15回の授業の中で10回、授業後にワクワクイズと称して10問の小テスト（以下、「ワクワクイズ」）を実施し音名を問う問題を出題した。また、中間試験と期末試験、復習回にも実施した。【資料1～3】【資料12】

2.1.3 指導実施結果

音楽基礎の授業で歌ったことにより、歌を口ずさむまで覚えていると、学生の様子から感じ取られた。その効果は、表1に示す試験の正答率が、中間試験と比べて期末試験で上昇していることからもうかがえる。

表 1. 「日本音名」を問う問題の音楽基礎履修者
1 年生の正答率総平均

	中間試験	期末試験
日本音名	81%	94%
英語音名	79%	90%

なお、前期授業を振り返って、第 15 回目の授業でアンケート形式の「振り返りシート」を実施したところ、以下のような意見が寄せられ、本指導法の効果が得られたと言える。

- ・音名ソングを通してコードを覚えることができた。
- ・最初は音符の名前もリズムもまったくわからなかったけど、オリジナルソングや実際にリズムを叩いてみることで覚えられた。最後はパッと見ただけで名前と何拍かわかるようになりました。
- ・初めは音名ソングを歌うのがとても楽しかった。
- ・初めは英語の音名もコードも全くわからなかったけど、音名ソングやピアノの授業を通して学ぶことができ、覚える事ができました。

2.2 課題②

2.2.1 課題②対応の留意点

音を読む（読譜）という作業は、ピアノ初学者にとって音の場所を覚え、それを鍵盤と結びつける複合的で時間を要する大変な作業だと感じられる。幼少期や児童の期間にピアノを学習した経験のある者にとっては、五線の音符を読む作業はそれほど負担にならないが、初めてピアノ学習に接する年齢が中学生以上に上がるにつれて、読譜の一つ一つの作業を順番に頭で考えて次に繋げていく作業になってしまい、多くのピアノ未経験者にとって、読譜作業は時間を要し精神的に負担に感じてしまうのではないかと考えた。指導法を考える上での留意点は、以下の 3 点にまとめられる。

i) 五線上の音符の場所を覚えようとするが、白黒の五線の高さの違いだけでは判りにくい。

ii) 音を読んでも鍵盤の正しい位置に手を置けない。

iii) 同じ音型の伴奏であっても、同じ情報として捉えられないので、同じ音型に出会う毎に立ち止まり、時間を要してしまう。

2.2.2 課題②対応の指導法

五線は黒、音譜も黒、白黒の五線に配置された音符を、いかに特徴を付けて印象に残して覚えていくか、その音符と鍵盤の場所をどのように関連づけ覚えていくか、譜読みを自分から積極的にするかを考えられるよう、遠藤が著した幼児教育指導教本（遠藤蓉子『キッズ・ピアノ 1』サーベル社、2010.）を参考にして、以下の 7 点からなる色音符による指導法を行った。

a) 授業では楽譜上の音符に色をつけ、白黒の世界からカラーの世界に変えて読譜を促した。音基礎のテキストには音のドレミファソラシドそれぞれに色を決め、ド＝赤、レ＝黄色、ミ＝水色、ファ＝きみどり、ソ＝ピンク、ラ＝オレンジ、シ＝紫と色を決め、それに基づき、学生には色鉛筆を用意させ、白い音符の楽譜を用意し、それぞれの音に決められた色を塗り色音符にするという練習をさせた。【資料 4】【資料 10】

b) 器楽の初心者グループレッスンに於いて学生全員に色鉛筆を持参させ、4 月に色音符の練習をした。学生が練習中の曲の楽譜に色を塗って、それぞれの音を認識させることを推奨した。【資料 5-1、5-2、5-3】

c) 左手の伴奏形で同じ音型を同じ色で囲むことも積極的に勧めた。左手の伴奏形では、

ドミソを赤丸、シレソ又はシファソをピンク色で丸、ドファラを緑色で丸、というように3色の色を塗ったり丸印で囲むように指導した。これにより見た目にも同じ伴奏形は同じ色として視覚的にも見やすくなり、練習が捗った。この行為を「グルーピング」と称し、学生が新しい楽曲に取り組む前段階での作業として積極的に勧めた。【写真1】【写真3】

- d) 楽譜上の音と鍵盤の場所が結びつくように、鍵盤に付箋を貼って弾くことを勧めた。最初は中央のドに貼り、その後は学生自身がわかり難い音に積極的に付箋を貼るよう促した。【写真4】
- e) 中央のド、下のド、高いドと、赤で塗りながら、まず読譜の起点となる「ド」の場所を認識するように声かけをした。【資料6】
- f) ハ長調以外の調であるト長調、ニ長調、ヘ長調の曲を新しく取り組む前に、調号が付いている音を色鉛筆で丸をつけさせた。【資料7】【写真5】
- g) 五線紙にヘ音記号上でコードの音を書く作業を頻繁に行った。器楽Ⅰの授業に於いて、ヘ音記号の音階を書く事、ハ長調3コードの音を五線譜に書き込む等の作業を取り入れた。【資料8-1】【資料9】【資料10】

以上の指導後に、10回のワクワククイズと2回の復習大会で出題した。【資料11】

2.2.3 指導実施結果

指導法 a), b), c) の実施結果

器楽Ⅰ初心者グループレッスンに於いて、学生達が自主的に楽譜に書き込む様子が多々見受けられた。初心者グループの学生の中から、学生A（ピアノ初心者；「さよならのうた」【写真

1】、「ブルグミュラー第9番「狩」」【写真2】）、学生B（ピアノ初心者、「むすんでひらいて」【写真3】）の楽譜を添付する。

同 - d) の実施結果

器楽Ⅰ初心者グループレッスンに於いて、学生達が自主的に各自のルールで鍵盤に付箋を貼って練習する姿が多く見られた。楽譜上の音符と鍵盤の位置の結びつきを意識して練習するには一つ的手段として有効だといえる。自分で鍵盤に付箋を貼ることによって鍵盤の位置を覚え、音域や音程についての感覚も少しずつ芽生えていた。ピアノ初学者で弾き歌い4曲目を練習中の学生Cは、楽曲によってどうしても音がとりにくい鍵盤に付箋を貼って練習している【写真4】。読譜のスピードも少しずつ上がってきて良い変化が見られる。自分なりに工夫して読譜し鍵盤の位置を意識することは、ピアノ初学者にとって目からの情報が手の動きに繋がる有益な練習ではないかと考える。

同 - f) の実施結果

中央ドの鍵盤からのト音記号の音の位置、ヘ音記号の音の位置は、初心者グループの中で約25%の学生から度々場所を確認する質問があった。この点の改善が、今後の課題である。

同 - g) の実施結果

ピアノ初学者の学生にとって、ト長調、ニ長調、ヘ長調の楽曲の調号がつく音とその調の主音を瞬時に判断するのは非常に難しいが、調号のついている音に色の○で囲むことによって迷わず指を鍵盤に運ぶことができています。更に○印をつけることによって調と調号を意識することにもなり、学生にとって実用的な準備作業だと言える。【写真5】学生D（ピアノ初心者、「バイエルよりニ長調音階」）。

同 - h) 実施結果

学生にとってヘ音記号はト音記号よりも馴染

みが無く、ヘ音記号の譜読みが苦手を感じている学生は多い。中間試験に於いても、ト音記号の音読みの平均正答率は95%なのに対し、ヘ音記号の音譜読みの平均正答率は58%であった。そこでその後継続して、ヘ音記号でハ長調3コードや音階を書く作業を行ったところ、期末試験では平均正答率が66%に上がった。ヘ音記号の楽譜にハ長調3コードを書く問題は、中間試験の平均正答率が55%に対し、期末試験の平均正答率は78%に上昇した。これらのことから、1年生の早い時期からハ長調3コードを演奏すること、それに並行して五線紙に実音を書き込む練習をすることは、早くヘ音記号の音に慣れ、スムーズに譜読みができることに繋がる有益な学びと言える。

授業内で実施した中間試験、期末試験における音読みの正答率を表2に示す。この結果、コードの音を五線に書く問題では21%向上し、習得効果が見られたが、鍵盤の音と楽譜の音の互換性を問う問題では1%の向上であり、指導法の課題として残った。

表2. 中間試験、期末試験における音読みの正答率

	中間テスト	期末テスト
鍵盤の音と楽譜の互換性	55%	56%
コードの音を書く	68%	89%

2.3 課題③

2.3.1 課題③対応の留意点

ピアノ初学者の学生にとって、楽譜に記されている音符を読む時、音符の高さとともに音符の名前や長さ(③)を知り、音部記号、調、拍子等と関連付けて演奏に繋げていかななくてはならない。音の高さ(②)とともに音符の名前や長さを覚えることに苦手意識を持っているピアノ初学者は多い。授業開始から半月過ぎて実施した学生へのアンケート調査から、「できた(わかった)ことは何ですか?」という質問に対して、「音符や休符の長さ」と回答したのは114人

中42人で37%、「できなかった(わからなかった)ことは何ですか?」という質問に対して「音符や休符の長さ」と回答した学生は114人中62人で54%であった。初学者の学生達に、まず音符を身近に感じてもらい、楽しく覚えてもらうことが留意点だと考えた。

2.3.2 課題③対応の指導法

音符は音名と違って覚えることが沢山あり、音符や休符の形をただ書かれているものを見るだけでなく、手話のような振り付けを付けることによって印象づけることを意図し、さまざまな音符、休符の説明も入れた歌詞による「2人で歌う音符ソング」を創った。この曲も音名ソング同様、歌唱の観点から本学の岡崎教授にアドバイスをいただいた【楽譜2】。更に音符と休符の形や長さ、沢山覚えなければならない事を考慮して、2人で歌い、1人が「問いかけ」もう1人が「答える」という以下のような問答形式にした。問答形式による問いかける人Qと、答える人Aの会話による歌詞と振り付けを以下のように創った。

- ・振り付けは手話のように手を使ったものにした。問いかけQは、4分音符は左手を拳骨で握り黒丸●を表し、棒は右手の手のひらを一直線に立て、左手の拳骨の横につけて表し「4分音符は何拍?」と訊く。Aは「4分音符は1拍」と歌い、右手の人差し指で1を表し応える。
- ・次にQが2分音符は左手で輪を作り白丸○を表し、棒は右手の手のひらを左手の輪の横に立てて2分音符を作り「2分音符は何拍?」と訊く。Aは「2分音符は2拍」と歌い右手の指で2を表す。Qは付点を左手の親指と人差し指をくっつけて点を表し、その後で先述した2分音符の横にくっつけ「付点2分音符は何拍?」と訊き、Aは「付点2分音符は3拍」と歌い右手の指で3を

表す。Q は全音部を右手と左手で輪を作り大きな○を表し「全音符は何拍？」と訊き、A は「全音符は 4 拍」と歌い右手の指で 4 を作る。

- ・ Q は、休符について、4 分休符は左手と右手を使い 4 分休符の形を作り「4 分休符は何拍？」と歌う。それを受けて A が「4 分休符は 1 拍」と答えて右の手で 1 を作る。続いて Q が両手を 1 本の線のようにくっつけてその上に顔を載せて「2 分音符は何拍？」と訊く。A はそれを受けて「2 分休符は 2 拍」と歌い右手で 2 を表す。

- ・ 更に Q が「付点 2 分休符は何拍？」と左手の指先で付点を作り、先述の 2 分休符の動作にくっつけて訊く。A は「付点 2 分休符は 3 拍」と歌い右手の指で 3 を作る。最後に Q が、右手と左手を一直線になるように重ねてそれを頭の上に乗せ、「全休符は何拍？」と訊ね、A が「全休符は 1 小節、休む～」と両手で大きく大きな円を描き 1 小節丸々休むを表現する。

2.3.3 指導実施結果

このように振り付けとともに歌いながら音符や休符を表現することにより、その特徴とともに名称と長さがより強調されて記憶に残る。2 人組んでペアになり、1 人が Q、他方一人が A と役割分担し、Q が問いかけて A が応える。Q と A は交代して役割を変えて歌った方が、よりしっかりと音符や休符を覚えることができた。

「2 人で歌う音符ソング」は 6 月 17 日の中間試験が終わってから歌い始めた。音基礎の楽典授業との相乗効果を 7 月 22 日、29 日の期末試験での正答率を調べると、中間試験からの変化が見てとれる。

表 3. 中間、期末での音符の長さを問う試験での正答率

中間テスト	期末テスト
80%	82%

表 4. アンケート結果

音符や休符がわかった	
4/22 時点：37%	7/29 時点：86%
音符や休符がわからなかった	
4/22 時点：54%	7/29 時点：21%

3. 結論

以上、ピアノ初学者がピアノを学習する時まず初めに習得すべき楽典について

- ① 3 か国 (イタリア、日本、英語) の音名を同時に覚え、身に付けさせること。
- ② 五線に書かれた音符を、まず視覚的に特徴付けて覚えさせること。
- ③ 音符や休符の長さを楽しく覚えさせること。

の 3 つの課題に関して指導法を考案し、その効果を授業を通じて検証した。その結果から、以下の結論を得た。

- 1) ピアノ初学者の学生にとって②が最も定着に時間を要することがわかった。
- 2) 課題①については「音名ソング」の歌により、定着率が上がった。ただ、それぞれ 3 か国の音名が、どのように今後の学習に繋がっていくのかまでしっかりとフォローする必要がある。
- 3) 課題③は課題①と同様に、授業による楽典の理解と「2 人で歌う音符ソング」の相乗効果で学生の理解出来たという実感を向上させることができた。試験結果に効果ははっきりと表れてはいないが、学生が音符

を知り音符に対する理解ができてきたことで「わかった!」という意識を持ち、それが前向きな気持ちを促し、自分で読譜しようという姿勢が見られるようになったことを強調したい。

以上のように、考案した指導法に一定の成果が得られた。今後は、以下の点が改善すべき課題だと考える。

色音符の作業は効率よく音符や鍵盤の場所を覚えるのに役立つツールだと感じたが、学生が日常の練習時にどれだけその作業をするか、意識するかによって効果は大きく差が生じる。授業内だけでなく、授業外の日常で、如何にその習慣を定着できるか、それを可視化するような方法を探りたい。また、課題②について、音を読む事に慣れるために、音階の途中からの上

り下がりについて、練習できる方法を探っていきたい。さらに、読むだけのトレーニングではなく、順次進行や1つ飛ばし、2つ飛ばしの上がり下がりの読み方も同時に練習させたい。課題②については、「楽譜の中の音を読み、鍵盤で位置を確かめる作業」に時間がかかるケースが多々見られた。音と鍵盤の位置が常に結びつくような練習を加えたい。

4. 謝辞

「音名ソング」と「2人で歌う音符ソング」を創るにあたって、本学教授の岡崎先生から貴重なアドバイスをいただき、さらには学生たちに対して歌唱実技をご指導していただきました。ここに感謝申し上げます。

楽譜 1

✿ 音名 Song ✿

作詞・作曲 股木裕美子
補作・歌唱 岡崎裕美

い る ん な い る ん な お ん めい ドレミファソ を う た っ て み よ う

(伊) イ タ リ ア お ん めい ドレミファソラシド ドシラソファミレド

(日) に ほ ん の お ん めい ハ ニ ホ ヘ ト イ ロ ハ

(英) え い ご の お ん めい C D E F G A B C

♪ いろんな いろんな 音名 ドレミファソを 歌ってみよう! ♪

(伊) イタリア 音名 ドレミファソラシド ドシラソファミレド
(日) 日本 音名 ハニホヘトイロハ
(英) 英語 音名 C D E F G A B C

楽譜 2

2人で歌う音符ソング

作詞・作曲 股木裕美子

補作・歌唱 岡崎裕美



4 ぶ おんぶ はなん ば く? 4 ぶ おんぶ は 1 ば く! 2 ぶ
ぎゅう ふ はなん ば く? 2 ぶ おんぶ は 2 は く! ふて
ん 2 ぶ おんぶ は なん ば く? ふて ん 2 ぶ おんぶ は 3 ば く! ぜん
ん 2 ぶ ぎゅう ふ は なん ば く? ぜん ん 2 ぶ ぎゅう ふ は 3 ば く! ぜん
おんぶ はなん ば く? ぜん おんぶ は 4 は く! ふて
ん 4 ぶ おんぶ は 1 ば く はん! ふて ん が つ と も の お ん ぶ の な が さ の は ん ぶ ん た す よ! 4 ぶ D.S.
Coda ぎゅう ふ は 1 しょう せつ や す み ー

〈1番〉

Q: 四分音符は何拍? A: 四分音符は1拍
Q: 二分音符は何拍? A: 二分音符は2拍
Q: 付点二分音符は何拍? A: 付点二分音符は3拍
Q: 全音符は何拍? A: 全音符は4拍
Q&A: 付点四分音符は1拍半

付点がつくと 元の音符の長さの半分つくよ

〈2番〉

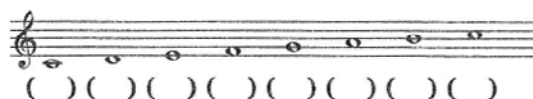
Q: 四分休符は何拍? A: 四分休符は1拍
Q: 二分休符は何拍? A: 二分休符は2拍
Q: 付点二分休符は何拍? A: 付点二分休符は3拍
Q: 全体符は何拍? A: 全体符は一小節休み

資料 1. ワクワククイズ（授業後の復習小テスト）に於ける音名の出題内容

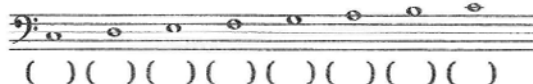
授業回	出題内容
1	① 「ドレミファソラシド」は、_____音名です。(ヒント:国名だよ) ② 「レ」は、日本音名では _____です。 ③ 英・米音名の「F」は、日本音名では _____です。 ④ 「ド・レ・ミ」は、英・米音名では_____です。
2	⑩ () に日本音名を書きましょう。  ハ () ホ () ト () () ハ
3	⑨ 英語音名のドはアルファベットの()です。
5	⑦ 音符の音名を()に書きましょう。※イタリア音名  () () () () () ()
7	⑥ 次の音の音名を()に書きましょう。 ※イタリア音名  () () () () () () () ()
9	⑧ () の中にイタリア音名を書きましょう。  () () () () () () () ()

資料 2

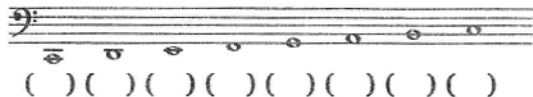
⑦ 次の音のイタリア音名を書きましょう。



⑧ 次の音の日本音名を書きましょう。

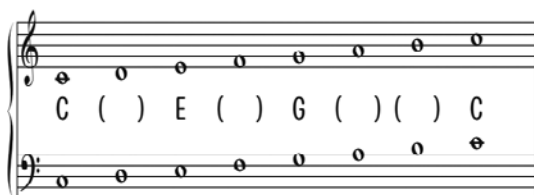


⑨ 次の音の英語音名を書きましょう。



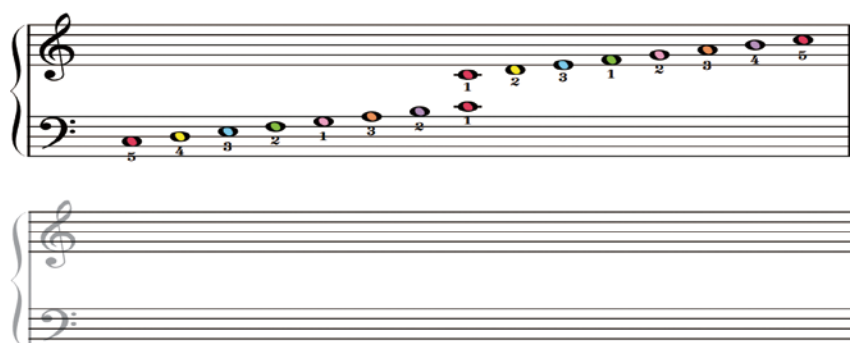
資料 3

() の中に英語音名を書きましょう。



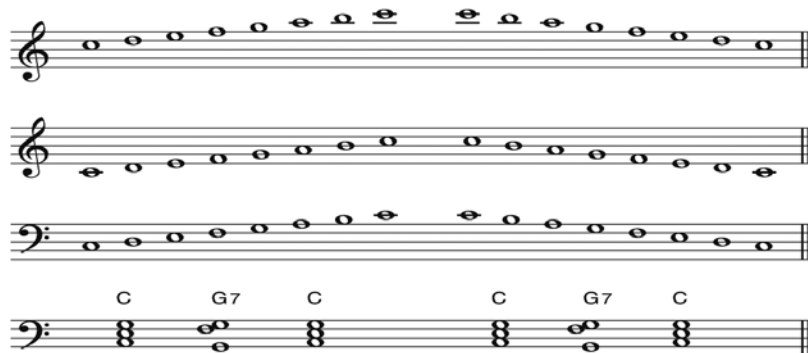
資料 4

音階 < 八長調 >



資料 5-1

色音符 練習ノート



資料 5-2

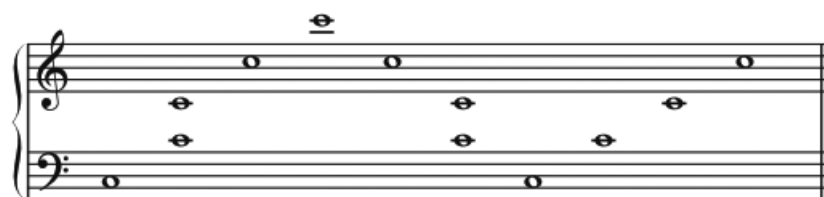


資料 5-3

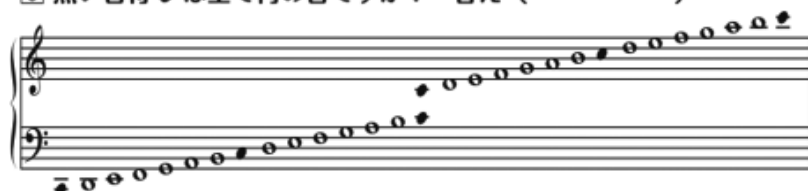
色音符 練習ノート



資料 6



③ 黒い音符●は全て何の音ですか？ 答え（ ）



資料 7

長調の調号と音階

☆3回書きましょう!

(ハ長調) ()

♪で ()

() ()

(ト長調) ()

♪で ()

() ()

(二長調) ()

♪で ()

() ()

(ヘ長調) ()

♪で ()

() ()

資料 8



② 続きの音階を完成させましょう。



資料 9

The image displays three musical staves, each representing a different chord in a piano style. Each staff consists of a grand staff with a treble and bass clef joined by a brace on the left. The chords are labeled in boxes above the staves: 'C' for the first, 'F' for the second, and 'G7' for the third. The notes are written as whole notes.

- Chord C:** The treble staff contains a C4 (middle C) and an E4 (first line). The bass staff contains a G2 (below the staff) and a C3 (below the staff).
- Chord F:** The treble staff contains a C4 (middle C) and an A4 (second space). The bass staff contains a D2 (below the staff) and an F2 (below the staff).
- Chord G7:** The treble staff contains a B4 (third space), a D5 (third line), and a G4 (second space). The bass staff contains a B2 (below the staff), a D3 (below the staff), and a G2 (below the staff).

資料 10

♪ おじぎの和音 ♪



♫ 色音符にしましょう ♫




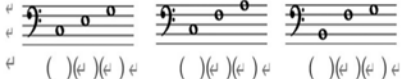


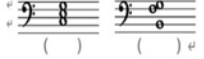
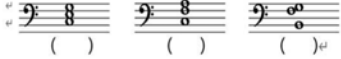
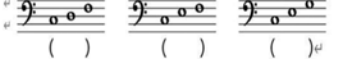

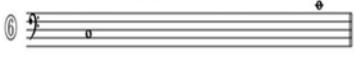
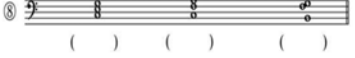
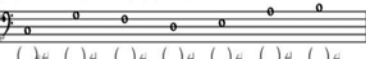
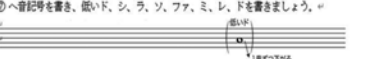
【八長調 C コード】



【八長調 G7 コード】



資料 11. ワクワククイズでの出題

授業回	出題内容	授業回	出題内容
3	㊦ 次の和音の音名を()にカタカナで書きましょう。 	7	㊦ 次の音の音名を()に書きましょう。 ※イタリヤ音名  () () () ㊧ ド〜ドまで()に全音符を書いて音階を完成させましょう。 
4	㊦ ヘ音記号のドは次のうちどれですか？正しい音の()に○を書きましょう。  () () () ㊦ 次のうち Cコードはどちらですか？正しい方の()に○を書きましょう。  () ()	8	復習プリント 【資料9-1、9-2】
5	㊦ 次のうち Fコードはどれですか？正しい方の()に○を書きましょう。  () () () ㊦ ヘ音記号のドミソは次のうちどれですか？正しいものの()に○を書きましょう。  () () ()	9	次のコードの音名、ヘ音記号の線上に書きましょう。 全音符で ㊦  C G7 F
6	㊦ ヘ音記号のド〜ドまで、音階を完成させましょう。  ㊦ 次のコード名を()にアルファベットで書きましょう。  () () ()	11	㊦ ()の中にイタリヤ音名を書きましょう。  () () () () () () () ()
		12回	㊦ ヘ音記号を書き、低いド、シ、ラ、ソ、ファ、ミ、レ、ドを書きましょう。  低いド 高いド
		14回	復習プリント 【資料10】

資料 12

同じように下に書き、()に音名を書きましょう。

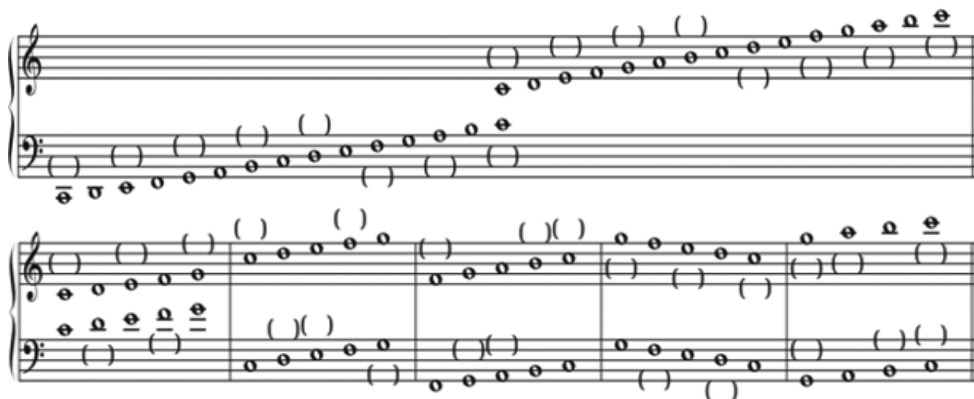


写真 1. 学生 A の楽譜

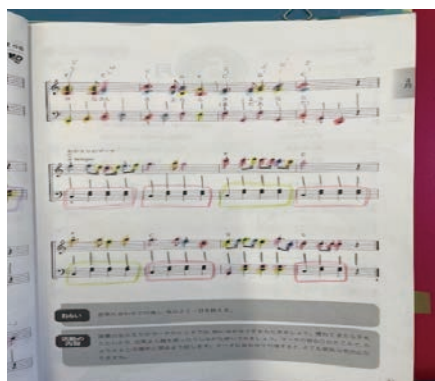
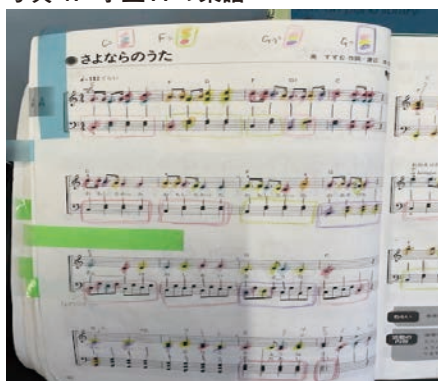


写真 2. 学生 A の楽譜

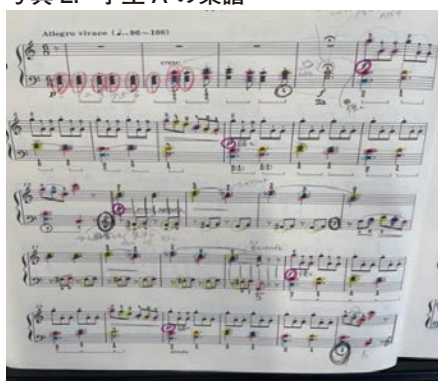


写真 3. 学生 B の楽譜

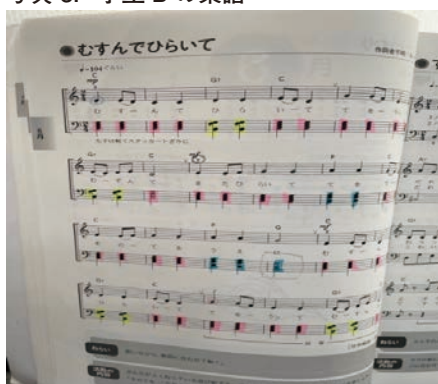


写真 4. 学生 C の工夫



写真 5. 学生 D の楽譜

